

市民活動団体ネットワーク情報交換会記録

【 1 グループ】

テーマ	広報活動、人材育成
司会者	石井 博史
発表者	山口 益男
参加者	奥村暁美（ねえよんでの会）、石井博史（ハーモニイカレッジ）、山口益男・加藤拓（K + TRUTH健康くらぶ）
記録者	中村佳乃（河原町分室）
【課題】	
健康クラブの活動を始めて1年になり楽しく活動をしている。	
鳥取県は生活習慣病の発症率が全国でも一ケタ台に入るなど、データで健康クラブの必要をPRしてきたが、なかなか人数が増えない。どうしたら	
会員を勧誘できるか。	
鳥取の若者の元気がない。横のつながりがない。小さい仲間はあるが	
広がりがない。街を元気にしたい。	
【解決策・今後の取り組み】	
広報活動について	
・活動内容を口コミで勧誘、参加者の声(生の声)がその場の空気を伝える。	
データだけでは勧誘できない。人から人へ誘うのが一番広がる。	
・ぴょんぴょんネット等メディアを活用する。	
・地道な活動を丁寧にやっていく。会員一人一人が楽しんで活動する。	
行政と一緒にできる活動（協働）もある、人との出会いを大切にする。	
・代表の存在は大事、原点がぶれないこと、夢と自信を持って活動する。	
・最初に思いありき。意欲は伝染する。資金、行政との連携の機会も生まれる。	

人材育成について
・ 5～10年後の地域をつくる価値観を持った子どもを育てる。
・ 小さい頃から地域に帰ってきたいような仕組みをつくる。
・ 絵本の読み聞かせ等子育て支援の活動が若者育成につながるような良循環をつくれるような取り組みが必要。
・ 市の施策に反映できるような NPO 団体の役割を作っていけたらよい。

【 2 グループ】

テーマ	人材育成、広報活動
司会者	山根志津（更生保護女性会）
発表者	横山卓典（The Fankey）
参加者	山根志津（更生保護女性会）横山卓典（The Fankey）土井倫子（鳥取環境市民会議）和田真一（鳥取ダルク）
記録者	小松茂子（用瀬町分室）
【課題】	
人材育成（協力者を含む）について	
・女性が少ない。	
・自分たちが設立したのであとをひきついでくれる人がどういうふうにしてくれるか心配。	
・若い人が少ない。	
・PRするけど、若い人はどこにいつているのか、若い人の勧誘はどうしたらよいか。	
・ダルクさんについては協力者が必要。	
広報活動について	
・どこに情報提供したらよいかわからない。	
・小学校、中学校にもしてもらいたい。	
連携、協働について	
・施設で生活しているので外のことがわからない。地域の方との交流に参加したい。	
【解決策・今後の取り組み】	
人材育成（協力者を含む）について	
・人材バンクを使って人材がない場合はそこから派遣してもらう。	
広報活動について	

・学校に広報誌をおいてもらうように願います。

・情報はマスコミ、図書館、新聞ダイレクトメール、携帯メールがより一番
情報を発信しやすい。

連携、協働について

・いい具合に交流ができればよい。(交流の場を増やして欲しい)

【 3 グループ】

テーマ	
司会者	村瀬峻史 (The Fankey)
発表者	近藤保 (アムネスティ鳥取)
参加者	小林京子・中嶋真由美 (桑の実会) 徳本秀雄 (雑木林の会)
記録者	大家しのぶ (佐治町分室)
【課題、今後の取り組み等】これといって決めないで雑談の中で決めていく	
大学生の悩み	
<ul style="list-style-type: none"> ・サークルを続けていきたいのでメンバーをどう集めていくか。 ・カチッと決めないで柔軟に、学部を横断してやる ・大学生 経験を持っている人 (交流して接点を作る) 	
会員集め	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分達のやっている団体を市民に知ってもらう機会 (PR) 若い人 (高齢者が暇だからやっていると言うのではなく) ・情報誌を色々なところに置かせてもらい、団体を知ってもらう 	
主体性を持つ	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター (行政が管理している限り) 自由にならない。 ・自立する。(自分達でやる) スウェーデン (国のスローガン) 個性の尊重 ・市民活動を盛んにする。 	
障がい者の問題	
<ul style="list-style-type: none"> ・いまだに、歩道の段差があって出歩けない ・弱者が発言する所がない (痛みがある人) 我慢する = 切捨て ・健常者の目を変える (健常者と言う方がおかしい) 健常者の方が欠陥者では? ・諸外国には障がい者だけの会社がある。 	

教育の問題
・ 特別支援（別学）まちがっている 分けて育てる学校はダメ
・ フィンランド（子供が育つ）日本人も見学に行っているのに進展がない
・ アメリカでは学校心理学者 カウンセラー カウンセリング
その他の意見
・ 世代を越えて話し合えてよかった。
・ 先生達がこういう会に出られれば勉強になると思うが忙しいと言って出られない。行政が出てこない（悪口ばかりでなくヨイショして）
・ 記録を職員にさせるというのは行政らしい
・ 紙コップというのも行政らしい（環境は？）

【 4 グループ】

テーマ	活動資金、組織運営、人材育成、広報活動、団体間の連携
司会者	安部徳子(桑の実会)
発表者	前川智亮(鳥取ダルク)
参加者	坪井健一(グループみんな)、小出泰子(ひばり会)、上田梅子(桑の実会)、前田豊(鳥取ワイズメンズクラブ)
記録者	吉村雅子(気高町分室)
【課題】各団体のさまざまな意見がでて、具体的な解決策まではいきついていません。	
活動資金について	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状のやり方では、月会費多額で、ボランティアでありながら、負担が多い。 ・会員の中での意見として、労力と時間は提供するが、お金は負担できな助成金を申請しながら、まかなっている。 ・特別な活動(研修会・講演会)に対する資金不足 ・活動費としては、茶代・切手代のみ。誰でも住みやすいまちづくりを目指して公助を求めていく。 ・全国的組織。講演会活動を通してお願いし、寄付金・義援金はあるが、足りていない。 	
【まとめ】資金不足。誰もが住みやすいまちづくりを目指して、公的な公助を求めていきたい。(助成金)	
組織運営について	
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の集まり、当事者もまたボランティア(ピアボランティア) ・会員の自主性に任せている。テーマ設定にも問題あり ・会員の高齢化。ボランティアへの負担が大きく、仲間で支えあってきた。今後は、活動の形態を変えて、スリムにしていきたい。 ・当事者が当事者を支えあって、お互いを助け合う。少しずつ交流を深めて、理解し合えた。全国的な連携はとれている。 ・それぞれの活動内容にわかれて、組織はしっかりしている。 	
人材育成について	

<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化。若者(学生等)への呼びかけしていきたい。技術が必要であれば、講習をとおして会員へ。
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の学生クラブへ訪問していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアカウンセラーが必要。意欲的な人がほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識はいらないが、年齢とわず、広報的に募集していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いがお互いを助け合う
<ul style="list-style-type: none"> ・技術が必要。講習を受けて会員に加入
<p>広報活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブをとおして広報活動が得られている。活動紹介等のパネルを作成していただきよかった。
<p>団体間の連携について</p>
<p>情報交換会は、お互いの話ができる良い機会。 (さまざまな違った活動ではあるが、いろいろな話ができる。)</p>
<p>【全体のまとめ】</p>
<p>まとめ)それぞれお互いが共助し合って、住みやすいまちづくりのために公助を求めていき、地道な活動、行動し、PR 広報していきたい。</p>
<p>そして、身近な助成金を申請して、機材購入であったり、さまざまな活動費へ利用できれば、資金不足の解消へとつながってくるのではないのでしょうか。</p>
<p>学生等への呼びかけや、技術が必要であれば、講習会をとおして会員募集していきたい。アクティブをとおして広報活動が得られた。(パネル)</p>
<p>このような、情報交換会で話し合いができ、良かった。</p>
<p>【その他の意見】</p>
<p>行政に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR などに、有名人を呼んできて大資金を使うのはおかしい。無駄な資金だ。地道な活動をしている団体などに、資金を使うべきだ。

【 5 グループ】

テーマ	活動資金・人材育成・活動全般について
司会者	井上謹之助（要約筆記白うさぎ）
発表者	塩和子（桑の実会）
参加者	長沢紀美子（ナルク鳥取）、西尾盛正（一般参加）
記録者	岩谷修（鹿野町分室）
【課題】	
活動資金について	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金がなく思うように活動できない。 ・行政からの補助金も年々削減され会の運営に苦労する。 ・会費をあげて運営資金としたいが、会員が減少するのが怖い。 	
人材育成について	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報等で、会員の募集を行うが会員増につながらない。 ・活動に必要な講習等を受けてもらって実践につなげようとするが、資格取得後辞めらる。 ・手話が出来る人が年々少なくなってきた。 ・会員が高齢化し若手会員が、増えない。 	
その他全般	
<ul style="list-style-type: none"> ・音声を録音する施設整備がなされていない。 ・ボランティア活動ができやすい環境、資金援助を行政がしてほしい。 ・高齢者、障害者が楽しめる場所づくりがしてほしい。 	
【解決策・今後の取り組み】	
活動資金について	
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市・鳥取県社会福祉協議会等の助成金を活用できるよう、情報収集と応募し運営資金等に役立てる。 ・数年計画で、会費を少しずつ上げていき会員のあまり負担にならないような徴収方法にする。 	

人材育成について
・ぴよんぴよんネット、市報等でグループのPR活動をおこなう。
・会員一人一人口コミで会員増をはかる。
・研修会等に出来るだけ参加し、他ボランティアグループとの情報交換を多くする。
・グループ内での研修等を増やし、参加しやすい体制作り。
その他全般
・放送局等録音設備の有る施設の借用できるような交渉する。
・各種研修会等ボランティアセンターからの情報を利用して参加する。

【 6 グループ】

テーマ	団体間の連携・協働、広報活動
司会者	清水増夫（とっとりフィルムコミッション）
発表者	上嶋勝己（とっとりフィルムコミッション）
参加者	油谷都々江（消団連）、川上ひろみ・児嶋千恵美（桑の実会）
記録者	阪田絵里（青谷町分室）
【課題】	
団体間の連携・協働	
・情報交換の回数が少ない。（年1回は少ない。多団体なので、他の団体を知る機会がない。）	
・協働でする機会も内容も分からない（協働したくてもわからない）	
・参加団体がかたよっている。（情報交換会）	
・文化団体の参加が少ない。（情報交換会）	
広報活動	
・PR誌・機関紙の未発行	
・マスコミの利用	
・ホームページの活用	
【解決策・今後の取り組み】	
団体間の連携・協働	
・情報交換会回数を増やす（年2回）...負担になることなく、今の様な形態で！	
・参加団体への呼びかけ方を考える...文書だけでなく、Tel等でも声かけする。	
・少ない団体が積極的に参加してほしい。	
・情報交換のやり方を考える。	
・協力体制が欲しい。	

広報活動

・ 全体向けの案内板の設置

・ ポラセンのメルマガ・とりボラ通信を活用。

・ 情報収集には、自分の方から出向くことも必要。

・ 公共の場に機関紙等をおかせてもらう。

・ T V や新聞等を利用する。

・ 広報担当者を決める。

--